

令和 6 年度第 2 回 福知山市立図書館協議会 議事録（要旨）

開催日時：令和 6 年 1 2 月 6 日（金）午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 5 5 分

開催場所：福知山市立図書館中央館 2 階 研修室

出席委員：神谷委員、仲野委員、善積委員、塩見育委員、中井委員、西村委員、塩見建委員
高見委員、上垣委員、

欠席委員：河北委員、小林委員、芦田委員

事務局：山路館長、四方次長、塩見係長、中嶋係長

傍聴者：なし

議題：（１）令和 5 年度図書館年報について

（２）「第 3 次福知山市子どもの読書活動推進計画」令和 5 年度実績報告について

（３）令和 6 年度 図書館事業報告（令和 6 年 4 月～1 1 月）について

（４）図書館開設 100 周年記念事業について

（５）蔵書点検について

（６）大江分館の臨時休館について

<委員長あいさつ>

<前回議事録の承認>

協議事項

1 令和 5 年度図書館年報について

～資料「令和 5 年度図書館年報」に基づき、事務局から説明～

内容：図書館年報の主な内容について

事務局

それでは、「令和 5 年度図書館年報」の報告をさせていただきます。事前にお送りしております、うすい青色の表紙の冊子をご覧ください。

「図書館年報」とは、図書館の沿革や資料冊数・利用状況などの各種統計、一年間の利用状況、実施した事業などをまとめ、年度ごとに発行している冊子となります。

委員の皆様には、事前に図書館年報をお送りしたところですので、主要な部分を中心に説明いたします。

表紙をめくっていただきまして、目次をご覧ください。内容は、大きく 8 項目となっております、福知山市の概要、図書館の沿革、施設の概要と利用案内、図書館資料の概要、利用統計、各種統計の推移、事業報告、各種指標を掲載しております。

4 ページをご覧ください。令和 5 年度の図書館の沿革について、掲載しております。

令和 5 年 11 月には移転のため、三和分館を臨時休館し、令和 6 年 1 月には、三和会館から三和支所の 2 階に移転し開館しました。

また、3 月には、中央館を市民交流プラザふくちやまに移転して以降の来館者数が 200 万人に到達しました。

8 ページからは「図書館資料の概要」を掲載しており、所蔵資料の数は、令和 4 年度の「342, 232 冊」に対し「7, 589 冊」増の「349, 821 冊」となっております。

14 ページからは令和 5 年度の「利用統計」を、24 ページからは平成 30 年度以降の「各種統計の推移」を掲載しております。

所蔵資料数は、毎年増加をしている状況にあり、新型コロナウイルス感染症の影響を脱したことにより、実利用者数、入館者数は前年度を上回り、特に入館者数は、令和 4 年度の「156, 356 人」から「101, 528 人」増の「257, 884 人」となりました。一方で貸出点数は前年度から「13, 265 冊」減少し「486, 186 冊」となっております。

26 ページからは、事業報告になります。講座・講演会やおはなし会等の各種イベント、毎月の企画展示等、各館の実績を掲載しており、昨年度の委員の皆様のお名前と、活動報告として、第 1 回から第 3 回図書館協議会の協議事項も掲載いたしました。

最終の 42 ページには、各種指標を載せております。

以上、駆け足となりましたが、令和 5 年度図書館年報のご報告とさせていただきます。

先ほども言わせていただきましたが、入館者数はコロナ前と同等程度に回復をしており、貸出冊数についても紙の本では確かに減少しておりますが、電子書籍と紙の本を合わせるとここが建った当時のピーク時程度に達している状況にあります。

委 員

今の説明の中にはなかったのですが、ホームページを見ていると、ナクソスミュージックライブラリーサービスが今年の年末でお終いになると書いてあったのですが、年報を見ていると利用回数 23 回と書いてあるのですが、それが理由ですか。

事務局

そうです。導入当初はめずらしかったので、そこそこの利用があったのですが、今年度に入ってから利用は月に一回程度、それもリピーターの方が使われるだけの状態となっておりました。3 年間の契約をしていたのですが、それが 12 月末で終了するというので、予算がなかなか厳しいなかで、続けていくことは難しい状況にあるとの判断で、終了させていただく運びとなりました。

委 員

24 ページにあります登録者数と実利用者数の表のところですが、登録者数は利用券を持っておられる方で、実利用者数は実際に 1 回でも借りに来られた数であると思うのですが、実際にカードをお持ちの方が来られない理由というか、うちの父親も最近亡くなったのですが、3 年毎の更新の際に利用のない方については、はねていかれるのかそのあたりの取り扱いはどうされていますか。

事務局

10 年更新されないまま経過をした方については、除籍させていただいております。また、まれにでは

ありますが、転出やお亡くなりになられたタイミングで返しに来られる方もありますが、そのようなケースはまれです。そのため、実利用者数が一番実情を反映している数字になります。

委員

この実利用者数は、一回でも貸出されたもので、延べ人数ではなく、また、利用券を持っている人が、入館のゲートを通った人の数でもないということですね。

事務局

そうです、図書館システム上で貸出を1回でもされた方の人数のことです。

委員

では、利用券をもっている方が入館された人数としてはまだまだあるということですね。

事務局

実際に窓口では、とくに利用期限が切れた利用券をこれは使えますかと持ってこられる方もおられますし、入館者数を考えると大分コロナ禍で離れられた方も戻ってきておられるのだろうと考えております。

委員

それでは、3年経過すれば再発行ということになるのですか。

事務局

有効期限の延長をさせていただく形です。有効期限を迎えると、自動貸出機が利用券を受付なくなりますので、登録の住所や電話番号が変更されていないかを確認させていただいて、その場で更新をさせていただく形となっております。

また、更新は無料ですが、紛失をされた場合には再発行料の160円をいただいております。

委員

小中学生は全員登録ではないのですか。やはり、家庭よっての判断になるのですか。

事務局

そうです。各ご家庭での判断となります。逆に電子図書館については、ID・パスワードを一括付与しておりますので、小中学生は全員登録されているような形となっております。

委員

この貸出数には電子図書館の数は含まれていないということですか。

事務局

そうです。紙の資料の貸出数です。

2 「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」令和5年度実績報告について

～資料「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績報告」に基づき、事務局から報告～

内容：令和5年度の実績状況について

事務局

第3次福知山市子どもの読書活動推進計画に関わる令和5年度実績報告書をご覧ください。

この計画は令和3年2月に策定し、令和3年度から令和7年度の5年間にわたる計画です。今回の令和5年度の実績報告は中間年となる3年目の報告です。

子どもの読書活動に関する関係機関の担当者にそれぞれ実績報告の提出を求め、それを取りまとめたものです。

子どもたちが発達段階に応じて色々な所で本と出会うという中で、最初に出会うということで、「家庭で本と出会う」については、子ども政策室から報告を出して頂いております。主だったものをあげていくと、子ども政策室では、4か月検診などの定期健診をされており、その際にブックスタート事業にボランティアさんを中心に子ども政策室と図書館が連携して取り組んでおり、令和5年度についてはコロナ禍の影響もあり対面での実施が令和2年度から出来ておらず、令和5年度においても健診の所に行き集団での読み聞かせを実施しました。それが月1回あるのと、1対1の読み聞かせができない分は、代替え事業として図書館で読み聞かせ体験を月1回実施していただきました。

それから子ども政策室では、以前はパパママ学級と呼んでいた事業で、赤ちゃんラボという事業を毎月実施されており、妊婦さんを対象に絵本の読みかせやその大切さをお伝えすることを令和5年度の7月から再開しました。現在では、9月から4か月検診時の1対1のブックスタート読み聞かせを再開し、月に2回ブックスタートボランティアの皆さんによる読み聞かせを実施しており、代替え事業であった図書館での読み聞かせ体験は終了しました。

また、りとるハピネスという子育て支援施設を子ども政策室所管で開設され、そこで「暮らしに応援貸出セット」を活用いただいております。

次が「保育園・幼稚園・こども園等で本と出会う」です。保育園から報告をいただいております。図書館見学のチラシを保育園等にも配布させていただき、これまで利用実績がなかった園からも申し込みをいただき、簡単な見学と読み聞かせを実施させていただきました。

園によっては、うちのおすすめ絵本をたよりに掲載されているような取組もされています。

次が「学校で本と出会う」です。こちらは市内の全ての小中学校から報告いただいております。各学校それぞれ特色を持って工夫されながら取り組んでいただいております。

朝読書については、ほとんどの学校で取り組まれており、タブレットを活用した電子図書の利用については、各学校や各学年により取り扱いが異なっている状況にあります。

学校司書さんの研修会が令和5年度は2回実施され、夏休みには、学振の図書館教育部会と学校司書の合同研修会が開催されたりしました。

次が「図書館で本と出会う」です。図書館では、令和5年度から図書館読書ボランティアの登録制度を実施し、27名の個人と13の団体に登録いただき、出張おはなし会の実施をお世話になっております。また、おはなし会ではなく、おすすめ本のブックリストをボランティアさんに作っていただいて展示をするなど読書活動推進団体の登録などをおこないました。

それから、「暮らしに読書を貸出セット」の見直しをおこない、5年度から1セット25冊のミニセットを作るなど、利用の促進を図り、実績としては133セット6,225冊の利用実績がありました。このような取り組みを通して、それがどのように活用され読書活動に結びついていくの

かを見直しながら、この計画を折り返し、令和 7 年度の計画見直しに結びつけていきたいと思っております。令和 5 年度の実績報告は以上です。

委員

表の中に連携事業というのがあったのですが、例えばこの表の中に連携事業というのがあるのですが、例えば大江学園であれば、大江分館と連携をし、司書がセレクトされた本を 1 か月借りるような事業をしているのですが、たぶん三和学園と三和分館も実施されていると思うのですが。それが載っていないのはなぜですか。

事務局

それは、令和 5 年度の事業報告なので載っていないのではないのでしょうか。

委員

たしかに大江分館との連携は 6 年度に入ってからですが、三和分館のほうは以前からされているとおもうのですが。

事務局

そうですね。図書館としては報告のあったものを取りまとめているもので、たしかに分館と学校との連携については抜け落ちてしまっているところがあるようです。次年度の報告からは反映させられるようにしていきたいと思います。

委員

とても良い取り組みだと思っていますし、子どもたちもこれをきっかけで分館の方にも行く子が少しではありますありますがありますし。

委員

小中学校の実績報告のところなのですが、図書館だよりの配布のところに「スクリレ」「さくら連絡網」「ロイロノート」と記載があるのですが、これらは何のことなのか教えてください。

事務局

紙の状態で配布させていただいていたものを電子媒体でお知らせしており、スクリレとさくら連絡網は学校と保護者をつなぐ連絡方法のデジタル化ツールで、ロイロノートは、授業で使用されるデジタルノートのことです。

委員

給食の献立なんかも、それで来るようになりましたよね。

委員

このあいだ、大江学園さんが朝の読書活動などを評価されて「朝の読書大賞」を受賞されていたのですが、あちこちから噂話として聞いたのですが、大江学園では先生が席を外されるとき子どもが必ず机から本を取り出して読んで待っているというような話を聞きました。それってすごいなと思いました。私たちが出かける時に必ず本を持ってでて、電車なんかでイスに座ったらその本を読むのとおなじことを小学生の内から習慣付けているということですし。私の孫も小学校に行っていますが、そこまでの取り組みはできていないと思います。それぞれの学校でそれぞれの取り組みをされているのだとは思いますが、そのような良い取り組みを広げていくにはどうすればいいのかと考えさせられます。教育のまち、読書のまちと私は思いたいのですが、こんなすてきな図書館のあるま

ちで子どもの読書活動の推進に取り組んでいくにあたり、全ての学校がそのようになればと思わずにはられません。

委員

3月までは学校のほうにいたので、現状が少しは分かるのですが、本当に学校によって取り組みの状況に違いがかなりあります。大江学園の話聞いた時、これがどの学校にも浸透すればいいなと強く強く思いましたが、朝読書をしっかりとやっている学校は限られています。それは、10年前でしたら、どの学校でも一斉に朝読書をしていた時間がありました。それがあいまいになって来て、朝読書をやめて昼読書をしている学校もありますが、昼読書ではしっかり読むことができません。時間つぶしのようになってしまうと思っています。一斉にどの学校も同じ歩調で朝読書を行うことがとても大事なことでないかと心配をしております。ある学校に行かせてもらった時に、朝読書をやっていたのですが、ほとんどがタブレットでした。流し読みをしているというか、読むというより、見ているだけの子どもが多すぎると感じました。そのことに図書館主任が気が付いて、これでは読書のチカラをつけることはできないと考えられ、タブレット一切禁止の朝読書に切り替えられたところもあります。

委員

実績報告となっておりますので、最終的に聞いていきたいのですが、進捗状況というか全体の度合いの評価というかはどのような感じとみておられますか。

事務局

5年間の計画ということで、その計画に書かれていることに沿って実施をしてきているのですが、ブックリストやブックトークマニュアルの作成であるとかに取り組み、それを4月の校園長会で配布して活用をお願いしているところです。

この実績報告でてきた意見を参考に、貸出セットが使いにくいという意見を反映し、セットのリストを書影付きにしたり、ミニセットを作成したり改善に努めているところです。

また、ボランティアさんの登録制度を導入したことにより、出張おはなし会の依頼を断ることなく実施できるようになったりしており、計画に基づいて少しずつではありますが取り組みは進んでいると思っています。

委員

ボランティアの話がでたので、お聞きしたいのですが、小中学校のところの読書ボランティアのところで、小学校は朝読書でボランティアが入っていますが、中学校のところに「ボランティアの依頼方法が分からない」という記載がありますが、どのように対応されたのかお聞かせください。

事務局

アンケートの聞き方がこれはどうされていますかとかボランティアさんを活用されていますかという内容で学校に聞いていますので、そんなのがあるのかとか、知らないとかいうような回答なのかなと思っており、ボランティアさんに依頼したいのにその方法が分からないというようなニュアンスなのではないのではないかと解釈しているのですが。

委員

申し訳ありませんが、分からないと言っておられるということは伝わっていないということなの

で、案内をし、図書館に申し込んでもらい、もしも必要な場合は対応するべきではないでしょうか。

事務局

令和5年度からボランティア登録制度を設けたばかりであり、現在のように依頼に基づいて派遣をさせていただく形がととのっていなかったのも、十分なアナウンスが出来ていなかったと思っていますし、今後はそういうおたずねに対する回答もしっかりとするようにしたいと思っています。

委員

以前ボランティアで中学校に行ったときにすごく楽しく反応もよかったので、どのようにされているのかと思いお尋ねさせていただきました。

3 令和6年度図書館事業報告（令和6年4月～11月）について

～資料「図書館事業概要報告（令和6年4月～令和6年11月）」に基づき、事務局から報告～

内容：おはなし会など各種事業についての報告

事務局

令和6年度の図書館事業報告をさせていただきます。4月から11月までの間、図書館で実施しました事業についてご説明させていただきます。

中央館の行事関係ということで、おはなし会として、4か月から8か月児対象の「えほんのへやめばえクラス」、また、同一日に「えほんのへや わかばクラス」として9か月から1歳6か月児対象とした職員による読み聞かせを実施させていただいております。1歳6か月からを対象とした「おはなしのひろば」をこちらは読書ボランティアの方にお世話になって実施しています。それぞれ月一回の実施です。

次に「ブックスタートボランティアによる読み聞かせ体験」です。こちらは、先ほど説明をさせていただきましたが、ブックスタートをコロナ前の状態に戻すということで、8月30日の最終日をもって代替え事業として実施をしておりましたこの事業は終了とさせていただきました。赤ちゃんラボを8、9、10、11月に実施、ボランティアの皆さんにかなりお世話になっております出張おはなし会を依頼に基づき実施しており、りとるハピネスには毎月、児童館、児童センター、中丹支援学校や放課後児童クラブなどで実施をしているのと、出張おはなし会では、シニアを対象としたおはなし会も実施をしており、こちらも依頼がありましたら、ボランティアの皆さんを派遣させていただきます。

大人のおはなし会をほぼ毎月実施しており、こちらは中央館のほうでは今年度から新たにはじめた事業となっております。

社会見学については、小学校2年生になりましたら中央館や分館に見学にくられ、見学や自動貸出機による貸出体験をしたりしていただいております。コロナ禍があけて今年度は全校の参加がありました。また、昨年度から保育園のほうにもご案内させていただいたところ、保育園の参加もあり見学と読み聞かせをさせていただきました。

その他のイベントとしては、福知山公立大学の新入生を対象としたガイダンスや、おはなし会スペシャル、福知山朗読ボランティアの皆さんによる朗読会、全3回のボランティア養成講座、夏休み読書感想文お助け隊や、新たな事業として共栄中学校英語劇、京都地方法務局との連携講座とし

て「遺言と相続について」など様々な事業を実施させていただいております。

次に記載をしております図書館開設100周年記念事業については、この後別途説明をさせていただきますので省略させていただきます。

展示関係として、2階のカウンター前とティーンズコーナーの壁面を展示コーナーとして市の各部署や中丹西保健所などと連携をして各種啓発展示を大体2週間ぐらいずつで実施をしております。

館内資料展示として、1階と2階の展示コーナーで各月テーマを決めて書籍の展示を実施しており、今年度から子どもの本を読む会さんの今月のおすすめの一冊という紹介コーナーもティーンズコーナーに新設しました。

その他として、ふくちやま電子図書館が、株式会社図書館流通センターの提供する電子図書館355館の中で、人口当たりの貸出数と閲覧数の両方で2年連続1位となっております。提供資料数は決して1位ではないのですが、そのような中で今のところ全国で1位をキープしております。これについては、やはり小中学生に一括してIDとパスワードを付与させていただきこととギガスクール構想でタブレットが児童生徒に行き渡った状況がタイミングよく一致したことが要因であると思っています。

職場体験・実習に関しては、今年度は多くの希望があり、高等学校だけでなく、関西大学や立命館大学などからもありました。

移動図書館の運行については、令和6年10月末時点で、市内の40拠点を移動図書館車2台で月1回の巡回をしているような形です。

バリアフリーサービスについては、コロナ禍があけてサービスを再開させていただいておりますが、今年度については利用実績がない形になっています。ZOOMによるサービスの提供についても令和5年4月から開始していますが、令和5年度は2件あったものの、今年度においては利用がない状況です。ただ、以前、対面読書サービスを利用されていた方が福祉施設に入っておられて、その方から対面読書サービスを施設に来て実施できないかと依頼があり、現在のところ週1回でサービスの提供をさせていただいております。

宅配サービスの利用については、令和5年度の2件に対して令和6年度は0件となっております。

暮らしに読書をおうえん貸出セットの利用については、今年度は現在のところ86件となっております。

各分館についても、それぞれ独自の行事に取り組みを行うとともに、館内展示を行っております。

以上、令和6年度の図書館での事業概要報告とさせていただきます。

委員

4ページについて伺います。説明を聞かせていただいて、小さなお子さんから小中学生に対して十分計画的にあるいは良いアイディアの取り組みをしておられ感心していますが、大人向き版というのがなかなかなくて、どんなことをされているのか興味津津で参加しているのですが、こちらに記載してあります出張おはなし会シニアとあるのですが、どのような形態で実施されているのか聞かせてください。

事務局

申込をされる団体によって異なりますが、紙芝居であるとか、川柳であるとか、頭や体を使った内容などで実施をさせていただいております。以前は図書館職員が行っていましたが、現在ではボランティアの方に行っていていただき、申込団体の方とボランティアさんの間でこういった内容で実施するかを打ち合わせていただき実施させていただいております。

委員

双方向でのやり取り、聞くだけでなく申込団体のかたも参加をするような形態も可能でしょうか。あくまでも本に限る話なのでしょうか。

事務局

そうですね。読書のボランティアさんに行っていていただきますので、基本的に本がメインとなります。

委員

私は、ボランティアとして菟原に行かせていただいたのですが、そこは貯筋体操というのに取り組んでいられて、高齢者のお方々が体を動かされた後にほっこりしてもらう時間として紙芝居のおはなしを静かに聞いていただく時間となりました。

委員

地域、自治会で高齢者の集まりは多くありますが、こんなサービスがあることを案外知らないこともあります。これからは、どんどん高齢者が増えて行く中で何らかの形で、生涯学習の最終場面として勉強する機会があってもいいのではないかと思います。

4 図書館開設100周年記念事業について

～資料「記念事業のチラシ」により事務局から説明～

内容：図書館開設100周年記念事業の実施状況について

事務局

本年度が図書館開設100周年ということで、9月17日が100周年で、6月21日が市民交流プラザに移転開館して10周年ということで、それを記念して今年度1年をかけて様々な取り組みを4月から実施しております。

オリジナル読書手帳を作ろうということで、ホームページからダウンロードをして作成してもらえようにしました。

入口に展示をしています、みんなで育てよう図書館メッセージの木ということで、4月から始めて1,000枚を超える葉っぱのメッセージがあつまり、順調に茂っていつています。紅葉の時期ということで葉っぱの色を変えてみたり、クリスマスには飾りづけをしたりして季節感が感じられるようにしていきます。

それから、ミミコロ顔出しパネルということで入口のところに図書館のキャラクターの顔出しパネルを設置しまして、子どもたちにとっても人気で利用いただいております。

図書館スタンプラリーを6月21日から9月17日までの期間実施し、先着100人に記念品をプレゼントしました。特にトートバックが人気で半日で回ってこられる方もあり、2日くらいでなくなりました。その効果もあって分館の方に初めてこられた方もおられました。

新規登録キャンペーンとして、6月と9月に先着100名でオリジナルしおりのプレゼントもしました。

それから、図書館フォトコンテストとして7月から10月まで「本とわたしと」をテーマに写真の募集をし、30人から45点の作品が集まりました。すべての作品を中央館と分館で巡回展を実施する予定です。

7月27日には、劇団なんじゃもんじゃさんによる人形劇を実施しました。大変人気で150人の枠に400人を超えるご応募をいただき抽選となりました。また、みかんの本文庫さんと淑徳高校の皆さんにもご協力いただきました。

また、これまで作成しました「紹介しますこんな本」のNO. 100までのリストを100周年にちなんでホームページで公開させていただきました。

それから、図書館100年のあゆみとして、年表を作成し100年目となる9月17日から市民文庫のコーナーに常設展示として設置をさせていただいております。

11月3日には、絵本作家の谷口智則さんに来ていただき、読み聞かせとライブペインティングを実施しました。ライブペインティングをしていただいた作品は現在額装中であり、分館に巡回展示をし、その後中央館で常設展示をしていきたいと思っております。

最後に、この史代さんの作品展をすることが決まりました。1月21日から2月2日まで、2階カウンター前で荒神絵巻の複製画を展示させていただきます。こちらは、宮部みゆきさんの荒神という小説の新聞連載時の挿絵作品となります。400点ほど原画があり、その中から20点程度選んで複製画を展示予定です。また、その期間にワークショップとしてこの史代さんの著書「本のこども」の中から、和本の代表格である「四ツ目とじ本」を作る「製本に挑戦」を同じ内容で3回実施する予定です。

このようなかたちで、100周年記念事業を年間通して進めておりますので引き続きよろしくお願い致します。

委員

質問ではありませんが、イベントに参加させていただきましたので、感想を言わせていただきます。

人形劇とライブペインティングの両方に行かせていただきました。やはり直にやっておられるのを見せていただくライブという形態は大事だなと思いました。配信で見るのとは違い、やっておられる息遣いが伝わってくるので、本当にいい事業をしてもらったと思っています。そして、今日この史代さんのイベントがあると聞き、まだ100周年記念事業が続くのだなと楽しみになりました。

委員

ライブペインティングに学校の生徒が何人か参加していたのですが、動物をその場でいろいろ書いてもらえるのを初めて体験して、すごく面白かったと言っていました。生でその場で書いてもらえる体験ができたことは、多分一生忘れないのではないかと思います。

5 蔵書点検について

内容：蔵書点検の実施について事務局から説明

事務局

毎年2月に実施をしております蔵書点検についてですが、中央館については2月17日月曜日から2月21日金曜日まで臨時休館をして実施させていただきます。また、分館については2月26日水曜日から2月27日木曜日までの2日間、臨時休館をして蔵書点検を実施します。

それとは別にこの中央館ですが11月からLED化の工事に入っていて、毎週月曜日に施工しており、最終的には蔵書点検期間に施工をし、LED化に伴う臨時休館は今のところない予定となっております。

また、それとは別に大江分館でも臨時休館を予定しています。内容は、大江分館が入っています総合会館の空調設備の工事が3月21日までの予定で実施されます。工期中、臨時休館するのではなく、なるべく早く図書館部分は再開できないかと現在調整中で、一部の本を事前に持ち出しておき、臨時休館中は大江支所のいこいの広場で週3回程度午前中に臨時開設を検討しております。

<閉会挨拶>